

平成28年度発掘調査遺跡の紹介

おか 丘 江 遺 跡

(柏崎市茨目3丁目字町屋敷)

丘江遺跡は、柏崎平野の中央やや西寄り、鯖石川左岸の沖積地に位置する遺跡で、標高は6～7mです。国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、平成26・27年度に引き続き、平成28年度も4～11月に発掘調査を実施し、現在は発掘調査報告書作成のための整理作業を行っています。28年度の調査でもこれまでの調査と同様に、鎌倉～室町時代(13～15世紀)の掘立柱建物・井戸・溝などを検出し、このころの大規模な村の跡であることが明らかになりつつあります。

これらの遺構のほか、調査区中央付近から沢状の落込みを検出しました。この沢状の落込みは、土層の堆積状況や出土遺物の検討から、集落が成立して間もないころ、深さ1m以上の谷を埋め立てて浅い窪地としている可能性が高く、埋め立て後の窪地を水田としていないか確認するために、理化学的な分析を専門機関に依頼しています。

出土遺物には珠洲焼・瀬戸焼・青磁・白磁などの陶磁器、曲物・漆器椀・漆器皿・漆塗りの舌長鐙(左下写真、現存長28cm)などの木器、五輪塔の部材などがあります。鐙は馬具の一種で、馬に乗る際に足を掛け、乗った後は足を置くための道具です。年代は室町時代(15世紀)のものと考えています。丘江遺跡には馬具で飾られた馬に乗る有力な武士が住んでいたのでしょうか。

丘江遺跡の所在する茨目地区は鎌倉～室町時代には鶴川荘安田条の一部で、柏崎地域の有力氏族である毛利安田氏の支配する地域でした。毛利安田氏との関連も考慮に入れながら、整理作業を進めていきたいと考えています。なお、28年度の丘江遺跡の現地説明会資料(11月12日に実施)は当事業団のホームページで閲覧・ダウンロードすることができます。(春日 真実)



丘江遺跡近景(北東方向上空から、正面奥が米山)



漆塗り舌長鐙



沢状の落込みの堆積土(白色の土塊が入った土層が埋め立て土)

平成28年度発掘調査遺跡の紹介

石 船 戸 東 遺 跡

(阿賀野市大字百津・上中野目・福田ほか)

石船戸東遺跡は、阿賀野川^{あがのがわ}右岸の自然堤防上に立地する遺跡です。国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い、平成27年度から2年にわたって発掘調査を実施してきました。27年度の調査により、縄文時代晩期(約2,500年前)、平安時代(約1,200年前)、鎌倉時代(約700年前)の人々の営みが明らかになりました(埋文にいがたNo.93を参照)。今回は、27年度に調査未了で埋め戻した鎌倉時代の大型井戸の調査を中心に紹介します。

井戸の直径は3mを測り、検出した面の約1.7~4.4m下に、2つに割った丸木舟を井戸側として埋め込んでいます。2つの材は筒形に組み合わせられ、上下に合計4本の^{さんぎ} 棧木を通して固定してありました(図3・4)。あまりに深いため27年度は完掘できませんでしたが、28年度は井戸の周囲に鋼矢板を打ち込んで、最後まで調査を行うことができました。2つの材を合わせた長さは約5.5mあり、井戸側に転用する際に除去された^{せんしゅ} 船首・^{せんび} 船尾を含めると7m近い長さの舟であったと推定できます。

また、28年度の調査では大型井戸とほぼ同じ時代の水田遺構(凹地状遺構)と、そこに水を引くための溝を検出しました(図2)。遺跡のすぐそばには^{はなだてがわ} 花立川と呼ばれる小河川が流れており(図1の右側)、水田と水路の発見は、当時も付近に河川が存在したことを示しています。河川を下った先は阿賀野川の旧流路である^{ももづがた} 百津潟と繋がっており、百津潟の縁辺には鎌倉時代の拠点的な町場である^{さかいづかいせき} 境塚遺跡が立地しています。石船戸東遺跡の丸木舟は、こうした河川を行き交うヒトやモノの動きを想像させる、中世の水上交通を考える上で貴重な資料と言えます。

(小野本 敦)

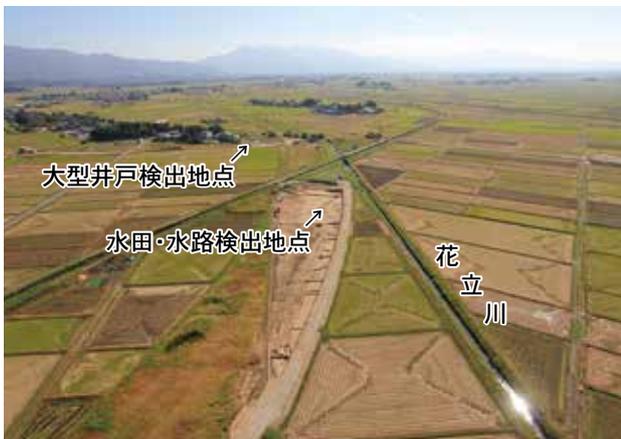


図1 上空北からみた遺跡



図2 水田と水路



図3 井戸側検出状況

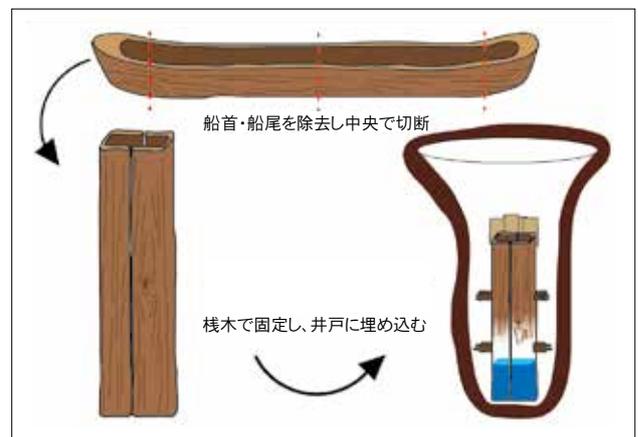


図4 丸木舟の井戸側転用模式図

埋文コラム

縄文時代の謎の編み物敷土坑

埋蔵文化財センターの常設展示室には、胎内市野地遺跡で見つかった縄文時代晩期の編み物敷土坑があります。胎内川右岸の低湿地に築かれた長さ1.25m、深さ40cmほどの穴の底に、不要になった2種類の編み物が敷き詰められたものです。その精緻な編み方から縄文時代の編組技術の高さがうかがえます。

さて、土坑の底に編み物が敷かれた例は、縄文時代早期末の佐賀県東名遺跡を最古として、縄文時代前期の熊本県曾畑遺跡にも認められます。西日本で見つかるこうした土坑は、谷や河川沿いの湧水地点に作られることから、低湿地型貯蔵穴と呼ばれています。中から編み物とともにあく抜きのないイチイガシの実が出土するケースが多く、ドングリの貯蔵穴と考えられています。

また、富山県桜町遺跡の縄文時代後・晩期の低湿地型貯蔵穴からは、あく抜きの必要なアカガシやコナラの実が大量に出土しており、貯蔵穴自体にあく抜きの機能があった可能性が指摘されています。

ところが、野地遺跡の土坑には食べられたクルミの殻が大量に捨てられていただけで、どのような目的に使用されていたのか明らかになっていません。新潟県内では、長岡市大武遺跡で縄文時代前期～中期の大量のクルミの実が詰まった貯蔵穴が見つっています。穴の半分は新潟県立歴史博物館に展示されていますが、残り半分のクルミを数えたところ776個分の殻があり、単純に2倍すると1,552個貯蔵されていたこととなります。貯蔵実験をしたところ、湧水地の穴にクルミを貯蔵した場合は発芽しにくく、ネズミにも食べられにくいことが分かりました。新発田市青田遺跡の縄文時代晩期の土坑からもクルミがわずかに出土したうえ、穴の埋土には遠くに飛びにくいクルミの花粉も多く含まれていたことから、近くに生えていたクルミの実を貯蔵した可能性が考えられます。青田遺跡の79基ある貯蔵穴は、容量から小・中・大型に分類できますが、クルミが見つかるのは小・中型で、底に敷物はありません。しかし、3基ある大型のうち2基の底には枝などが隙間なく敷かれており、野地遺跡と敷物・サイズの点で共通します。こうした敷物は、底から染み出る湧水の浄化を目的とした濾過材とも考えられ、自然循環する濾過水に堅果類などの食料や、アサなどの繊維素材などを水漬けし、保存や処理が行われていた可能性があります。野地遺跡の編み物敷き土坑からは、縄文人の生活の知恵や技術を垣間見ることができるのです。

(荒川 隆史)



野地遺跡の編み物敷土坑



大武遺跡のクルミ貯蔵穴(深さ32cm)



青田遺跡の敷物を枝で固定した貯蔵穴(長さ1.2m)

平成29年度
新潟県埋蔵文化財センター巡回展

『縄文の造形美—六反田南遺跡—』を開催します



さまざまな形や文様の縄文土器

糸魚川の海辺から姿を現した六反田南遺跡。縄文時代中期の土器は火炎土器とは異なる流麗な造形美にあふれ、かたい蛇紋岩で作られた石斧は力強さを放ちます。文化庁主催「発掘された日本列島 新発見考古速報 2016」の主演として全国を縦断した六反田南遺跡の出土品が、ふるさと新潟の4会場を巡回します。

- 期日・会場 平成29年4月14日(金)～6月25日(日) 新潟県埋蔵文化財センター(新潟市秋葉区金津)
平成29年7月8日(土)～8月27日(日) 十日町市博物館(十日町市西本町)
平成29年9月9日(土)～10月29日(日) フォッサマグナミュージアム(糸魚川市一ノ宮)
平成29年11月25日(土)～12月17日(日) 新潟県立歴史博物館(長岡市関原町)

- 主な展示品 縄文土器(深鉢・浅鉢)31点、磨製石斧の製作工程品41点、
土偶7点、土製耳飾り3点、石製装身具5点、
ヒスイの原石・剥片13点、石棒1点

- 観覧料 各会場とも無料

- 関連催物 ◆新潟県埋蔵文化財センター講演会

会場：新潟県埋蔵文化財センター 時間：13:30～15:30

定員：80名(定員次第締め切り) 参加費：無料

お申込み：埋蔵文化財センターに電話0250-25-3981、ファックス0250-25-3986

メールniigata@maibun.netで名前・住所・電話番号を添えてお申込みください。



磨製石斧の製作工程品

回	日程	タイトル	講師	受付締切
1	4月30日(日)	日本の石「ヒスイ」 —その利用のあゆみ—	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 加藤 学	4月28日(金)
2	5月14日(日)	火炎土器の時代	長岡市立科学博物館 館長 小熊 博史氏	5月12日(金)
3	6月18日(日)	佐渡金銀山遺跡の時代	新潟県教育庁文化行政課 小田 由美子	6月16日(金)

新潟県埋蔵文化財センター 校外学習・出前授業・キャリア教育・職場体験受付中!

校外学習

一本物で歴史学習と体験

当センターでは、センターを丸ごと教材に位置付け、歴史学習や体験学習、キャリア教育の支援ができるようプログラムを作成しています。児童生徒が本物の土器や石器を見たり触れたりすることによって、実際にある歴史を体感しながら学んでいただけます。メニューには本物の出土品を用いた歴史解説、ワークシートを用いた展示見学があります。また、体験学習には、石器の切れ味体験、火起こし体験、勾玉^{まがたま}作り体験があります。



本物の縄文土器を持つ



縄文人の道具箱で学習



ワークシートで学習



石器の切れ味体験

出前授業

一学校で 本物学習と体験

センターの職員が学校に向いて歴史解説をするほか、体験学習も行うことができます。土器や石器など数多くの本物を持ち込むため、学校にいながらセンターの校外学習と同様の学習を体験いただけます。



火起こし体験



勾玉作り体験

キャリア教育

一センターの 仕事見学

キャリア教育のために職場見学を取り入れ、土器の復元や保存処理など普段は入ることのできないバックヤードの見学を実施しています。出土品の整理作業をとおして、郷土の歴史が明らかにされていく過程を目の当たりにすることができます。

実際に土器の接合や金属製品の保存処理を行うセンターならではの職場体験も受け入れています。

職場体験

一歴史を伝える 仕事最前線



土器の復元作業を見学



保存処理室で顕微鏡を覗く

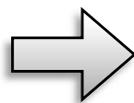
校外学習モデルコース

●お問い合わせ／新潟県埋蔵文化財センター ☎0250-25-3981

9時30分活動開始

新潟県埋蔵文化財センター

- ※複数クラス入れ替え ※各45分
- ・展示見学・職場見学
- ・本物で歴史学習
- ・石器の切れ味無料
- ・火起こし(4人で550円) or 勾玉作り(1個220円程)

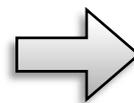


12時終了

徒歩約10分

古津八幡山遺跡

- ※時間は30分に設定 ※詳しくは弥生の丘展示館
- ・史跡公園の広場で昼食 (雨天はセンターで昼食)
- ・竪穴住居や古墳を見学



13時20分終了

バス約10分

石油の里

- ・金津層の砂泥互層を見学

14時30分終了

県内の遺跡・遺物96

刈羽貝塚

(昭和27年12月10日 県指定史跡名勝天然記念物(史跡))

遺跡所在地：刈羽郡刈羽村大字西谷字源土 所有者：個人

刈羽貝塚は、源土沼と呼ばれている湿沢地を眼下に見る手崎丘陵およびその斜面に位置し、丘陵上の標高は約16mです。新潟県内における貝塚は、刈羽貝塚のほかには新発田市で2か所、佐渡市で10か所確認されています。太平洋側では多い貝塚ですが日本海側で少ないのは、潮の干満の差が少なく貝の採集に適さないことや貝の生息に適さない地形などの理由が考えられます。

この貝塚は明治42(1909)年に神明社移転の際に発見され、昭和2(1927)年に京都大学教授清野謙次が、さらに昭和27(1952)年に新潟県教育委員会や北方文化博物館などの共催・後援を受けて東京大学講師八幡一郎が発掘調査を実施しました。また、平成9(1997)年には源土運動広場造成に伴い、昭和27年の調査か所のさらに源土沼側を調査しました。

昭和27年の調査では、多くの遺物が出土しています。貝では、汽水産のヤマトシジミを主体とし、カラスガイやタニシなども混在します。汽水産貝類のあり方は、当時の海岸線が手崎丘陵付近まで迫っていたことを示しています。そのほか、イヌ・イノシシ・ニホンジカ・水鳥類・クジラ類などの骨片も出土しています。土器はほとんどが全面に斜縄文や羽状縄文などの文様が施されるもので、ほかに口縁部に点列文や微隆帯の文様が認められるものが出土しています。八幡は、これらの土器を「刈羽式土器」と命名しました。現在では縄文時代前期後葉に位置づけられています。

このほかにも石鏃・磨製石斧・石錘・玦状耳飾などの石器や骨製簪などの装身具も出土しました。

平成9年の調査では、刈羽式土器の他に前期の諸磯式、蜆ヶ森式、鍋屋町式、円筒下層式、中期の新保・新崎式、大木9式、後期の三十稲場式、三仏生式などの土器が出土しています。出土量から前期後葉から中期前葉が主体と考えられます。石器では、石鏃、石錘、石匙、打製石斧、磨製石斧、石錘、磨石類、石皿、玦状耳飾、玉未成品などが出土しています。磨製石斧では擦り切り痕を残す蛇紋岩製の未成品も出土しており、磨製石斧の製作が行われていたことも明らかになりました。また、黒曜石の蛍光X線分析を行ったところ、長野県の和田峠付近と新潟県の新発田市板山の黒曜石が供給されていたことが推定されました。

このように刈羽貝塚は、本県に残る数少ない貝塚として、考古学上はもちろん、先史地理学上においても貴重な遺跡であることから、昭和27年に県指定史跡名勝天然記念物(史跡)に指定されました。(刈羽村教育委員会 田中 亨)

参考資料：

寺崎裕助1999「新潟県における縄文時代前期の土器—その標識資料と編年—」『縄文土器論集』縄文セミナーの会
中野 純1998「縄文前期の貝塚とムラ」『図説 長岡・柏崎の歴史』郷土出版社
八幡一郎1958『刈羽貝塚』北方文化博物館



刈羽貝塚(北から)



刈羽式土器

埋文にいがた No.98

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社